

令和7年度 沖底漁期前調査結果

青谷沖（水深249m）の漁獲物

（ハタハタは体長16cm～18cmの③～④番サイズ）



中江（水深183m）の漁獲物

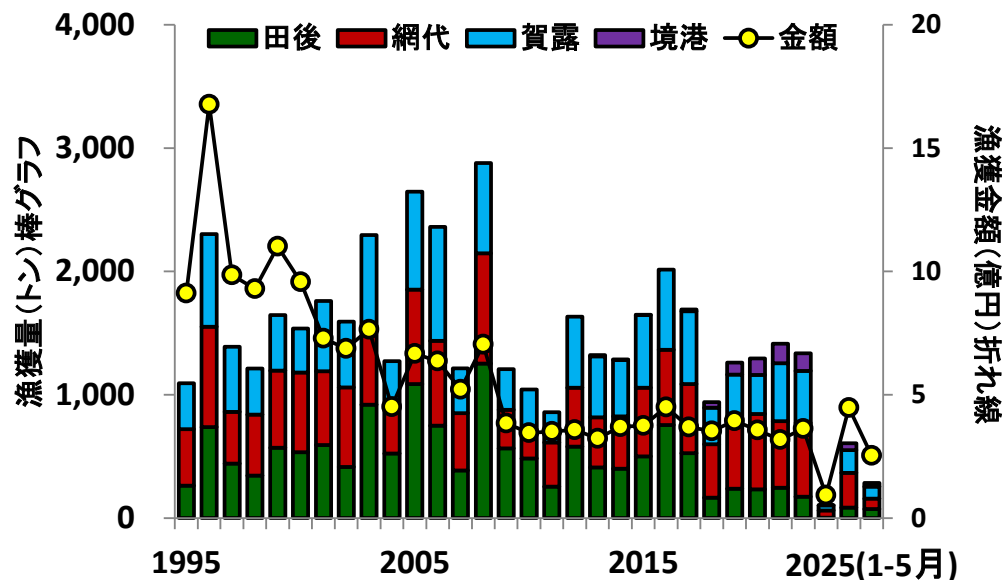
（ハタハタは体長13～15cmの⑤～⑥番サイズ）



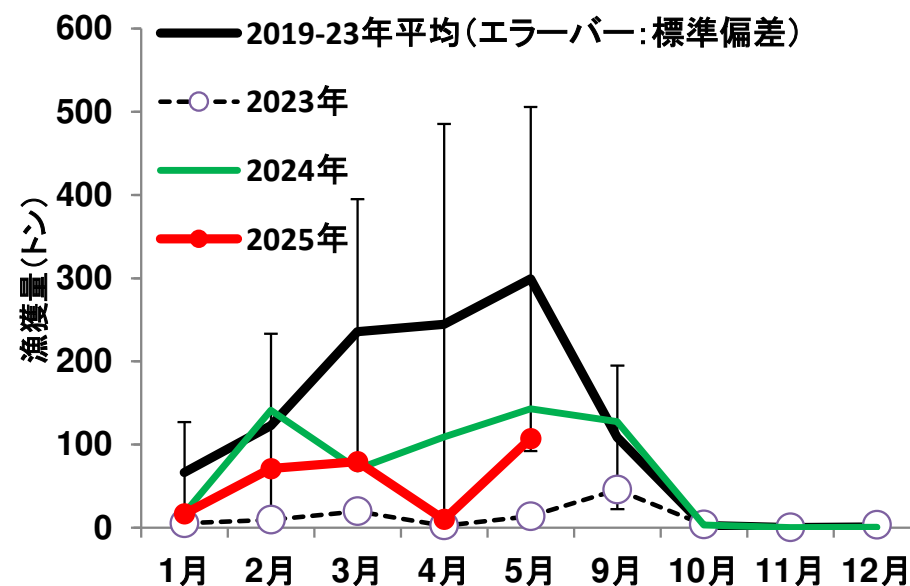
※中江で大型クラゲの入網あり。
今年はクラゲの来遊はそれほど多くはない予報だが注意は必要

近年のハタハタの漁獲状況

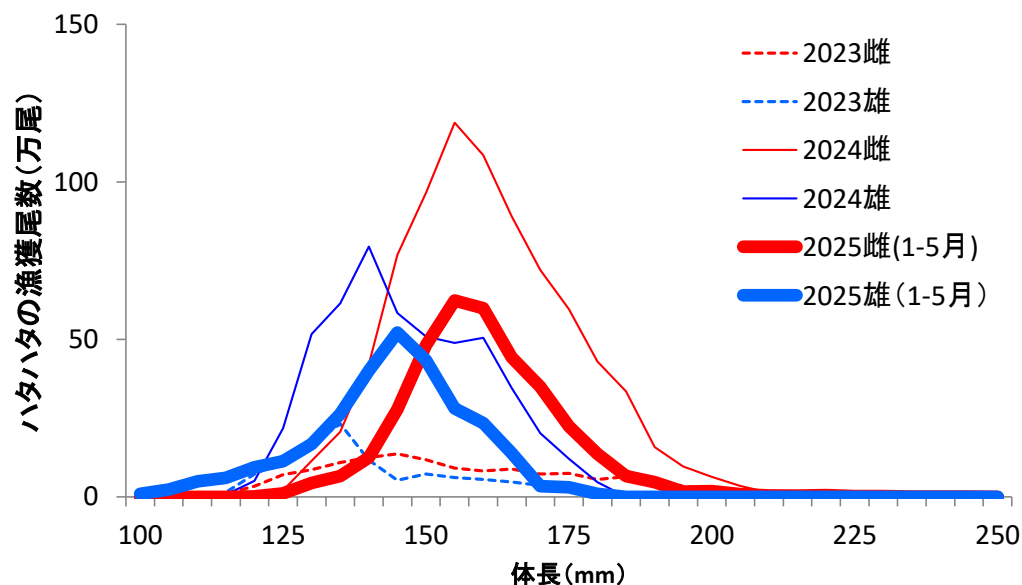
漁獲量の推移



月別の漁獲量



漁獲物の体長組成



・ 2024年の漁獲量は607tで極端な不漁となった2023年より回復したものの低調な状況は継続

・ 2025年の春漁は5月中旬の漁期終了直前から2歳魚（2023年級群）中心の漁獲が見られた

目 的

第一鳥取丸を用いた試験操業により漁期
始めの漁獲対象魚として期待されるハタハ
タの分布状況を把握

⇒10月になるとハタハタは逸散するので
効率的な漁獲に役立てて欲しい

方 法

【調査海域】

青谷沖3点 大瀬（D漁礁西）4点
中江2点、日御碕沖2点
の計11地点で調査
(白島沖3点は欠測)

【調査日】

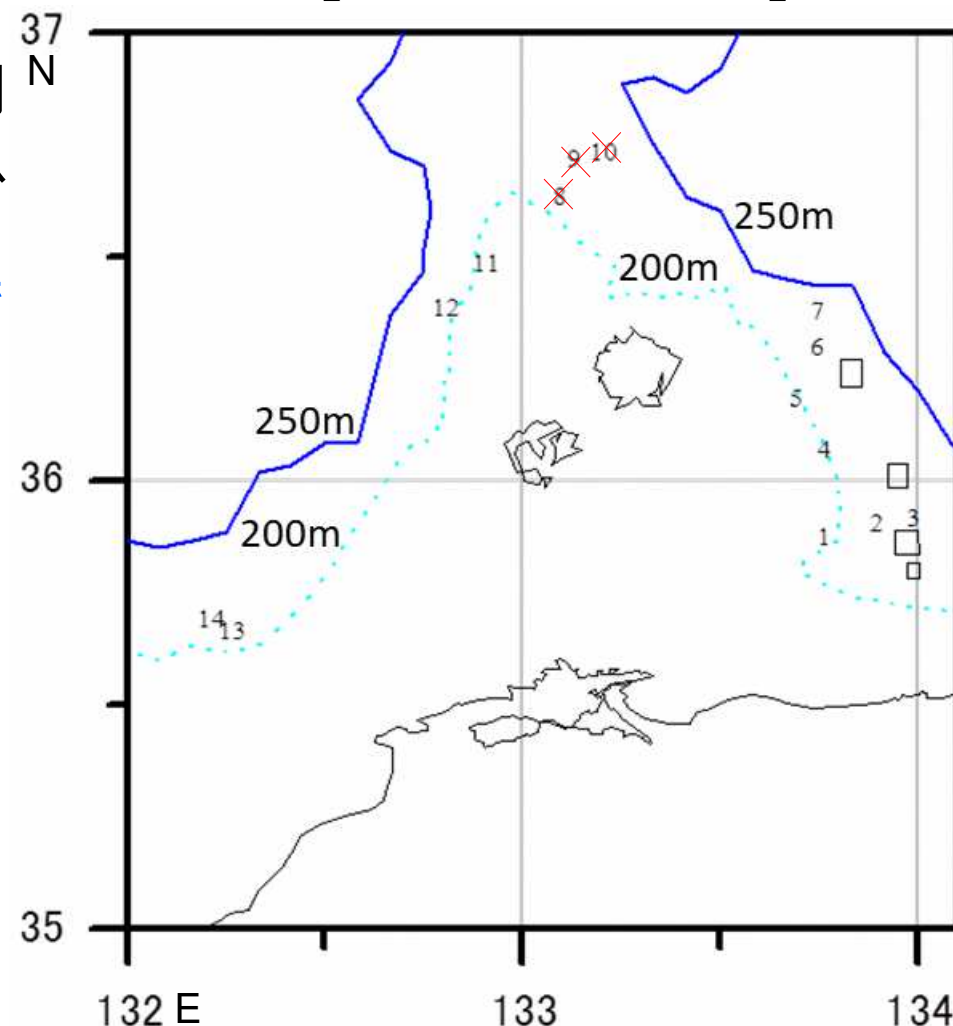
令和7年8月4-5日

St.1-7（青谷沖、大瀬）

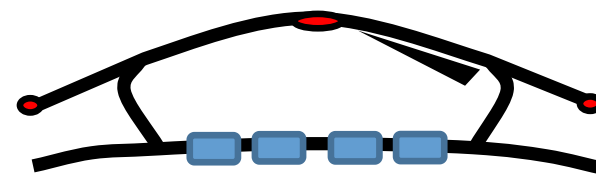
令和7年8月18-20日

St.11-14（中江、日御碕沖）を実施

【調査海域及び定点】



【調査漁具】 着底トロール網

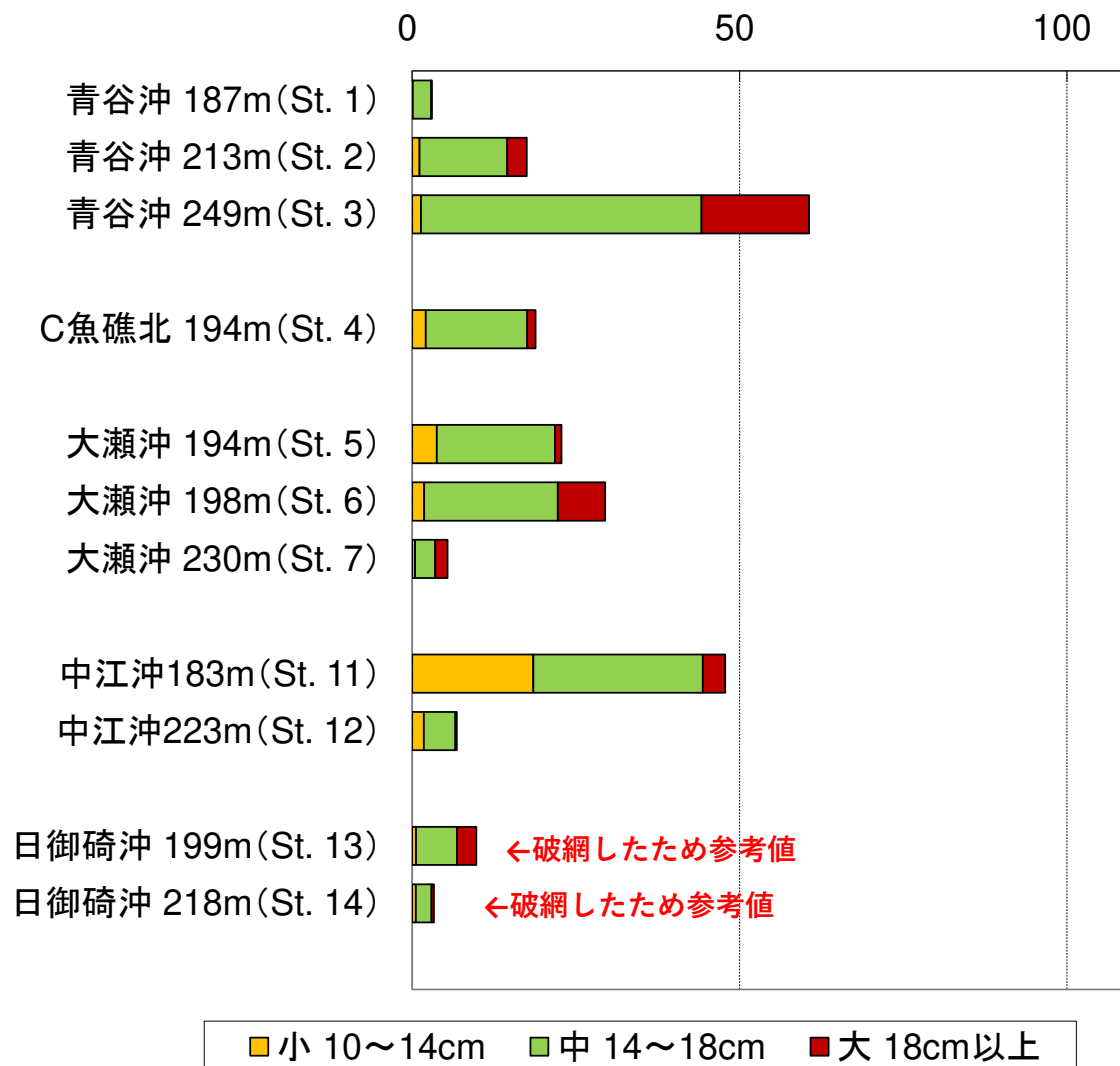


袋網の目合：7節
網幅：20.8±1.52m (17.7~23.3m)
網高：2.0±0.59 (1.5~2.9 m)
グランドゴムボビン：141φ× 180mm

結果① ハタハタの分布状況

体長区分別の入網重量

1網(30分間, 約1.5マイル曳網)あたりの入網重量(kg)



- 青谷沖 (St.3)、中江沖 (St.11) でやや多い入網あり。
- 青谷沖 (St.3) は中～大型サイズの雌の割合が高い。
- 中江 (St.11) は小～中型の雄の割合が高い。

結果② ハタハタの分布状況（過去年との比較）

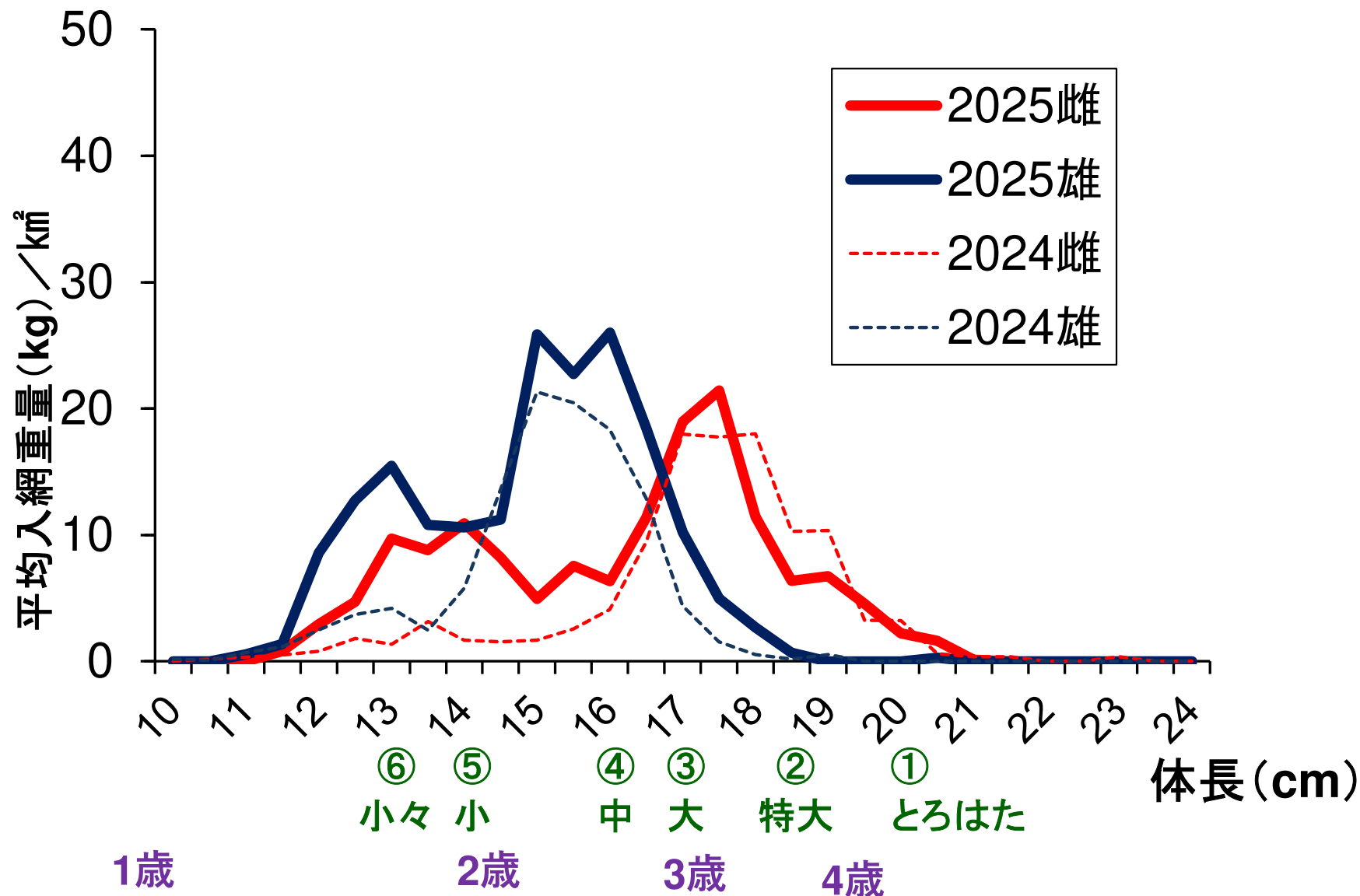
300kg以上
 100kg以上

（単位：kg/1網（30分間、約1.5マイル曳網））

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
1 青谷沖 187-198m	51.2	25.0	6.9	11.5	1,515.8	46.9	95.2	39.2	2.0	3
2 青谷沖 207-219m	60.9	94.0	9.3	8.6	1,602.3	120.0	トロールウインチの故障により欠測	7.2	69.8	17.5
3 青谷沖 246-252m	785.4	79.9		1.1	22.2	39.0		0.5	32.0	60.6
4 C魚礁北 195-199m	31.9	48.4	118.5	145.8	112.0	176.0		2.2	5.6	10.7
5 大瀬 192-200m	48.2	34.7	11.3	4.3	29.2	50.4		104.4	12.1	22.8
6 大瀬 207-215m	216.0	246.0	65.5	26.1	40.2	26.0		16.5	-	29.5
7 大瀬 234m	855.0	222.8	18.0	22.8	100.0			2.3	2.9	2.7
8 白島沖 204-205m	10.0	低気圧等の影響で調査できず		3.2	110.0	51.2		1.7	1.8	
9 白島沖 216-219m	67.5			20.6	175.7	46.3		2.3	16.1	
10 白島沖 229-235m	330.0			38.2	63.0			0.8	5.0	
11 中江 189-190m	28.2			3.5	72.0	126.0		6.2	21.2	47.8
12 中江 218-227m	49.0			13.3	342.5	1.3		1.0	2.3	3.4
13 日御碕沖 206-210m	2.4			4.2	28.4			9.5	2.7	9.8
14 日御碕沖 232-233m	0.9			11.3	3.8			5.3	2.6	3.3
平均値	181.2	107.3	38.2	22.5	301.2	68.3	-	15.1	13.5	19.2

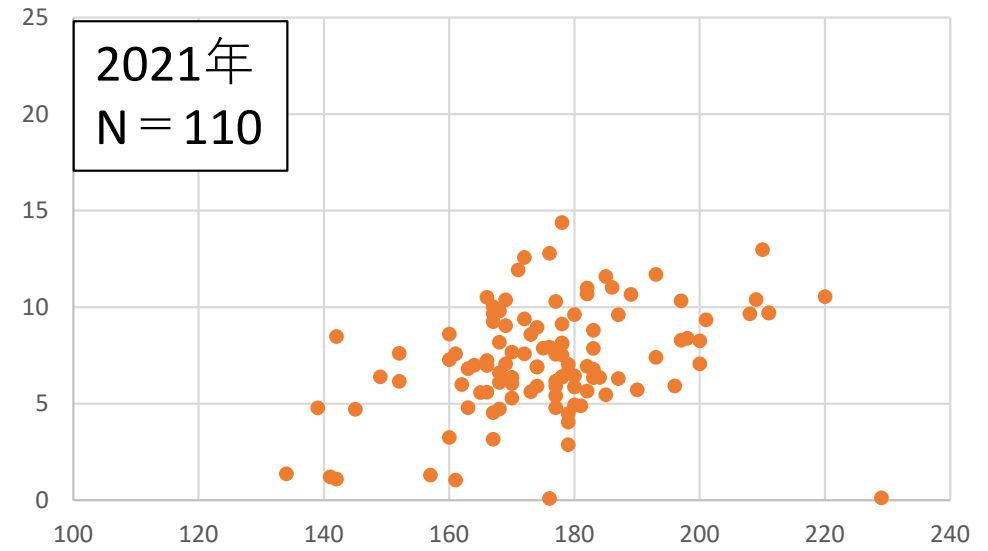
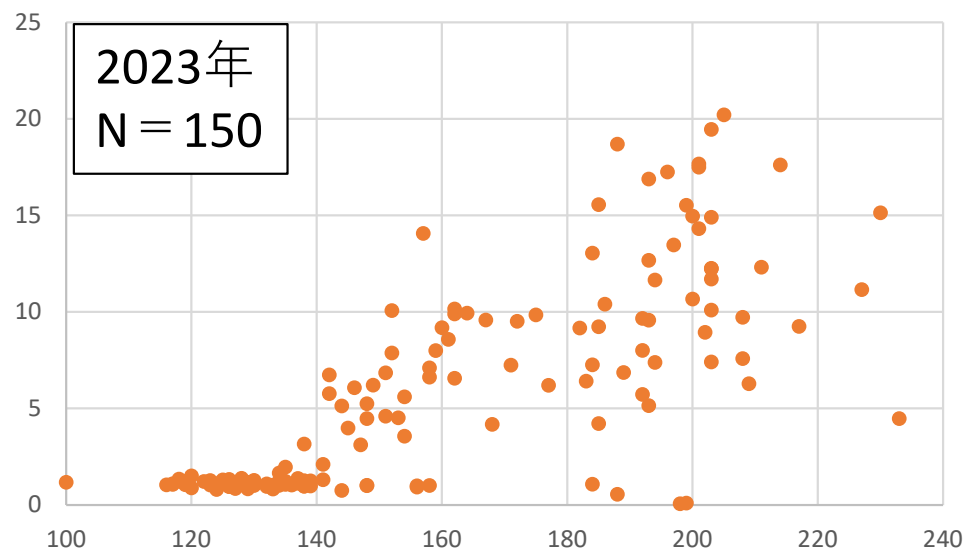
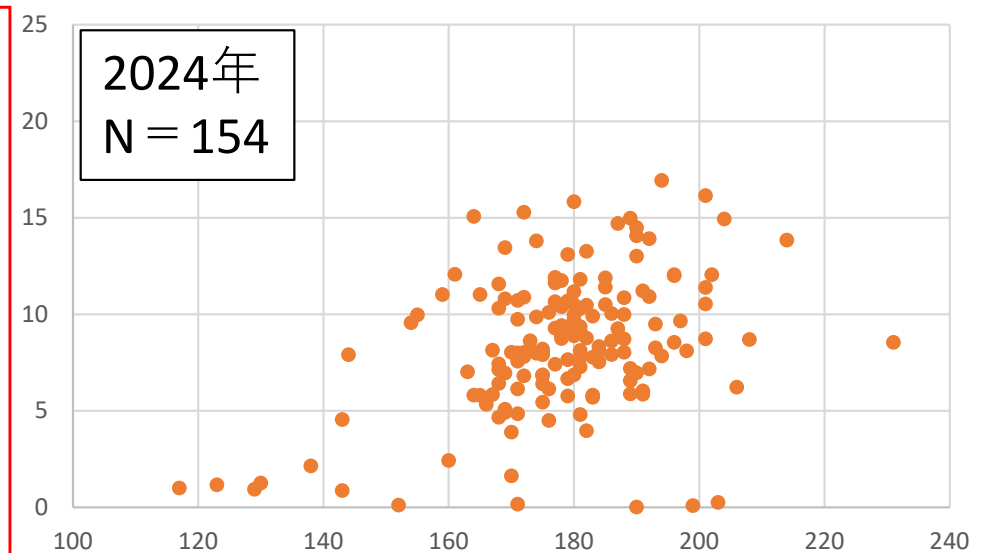
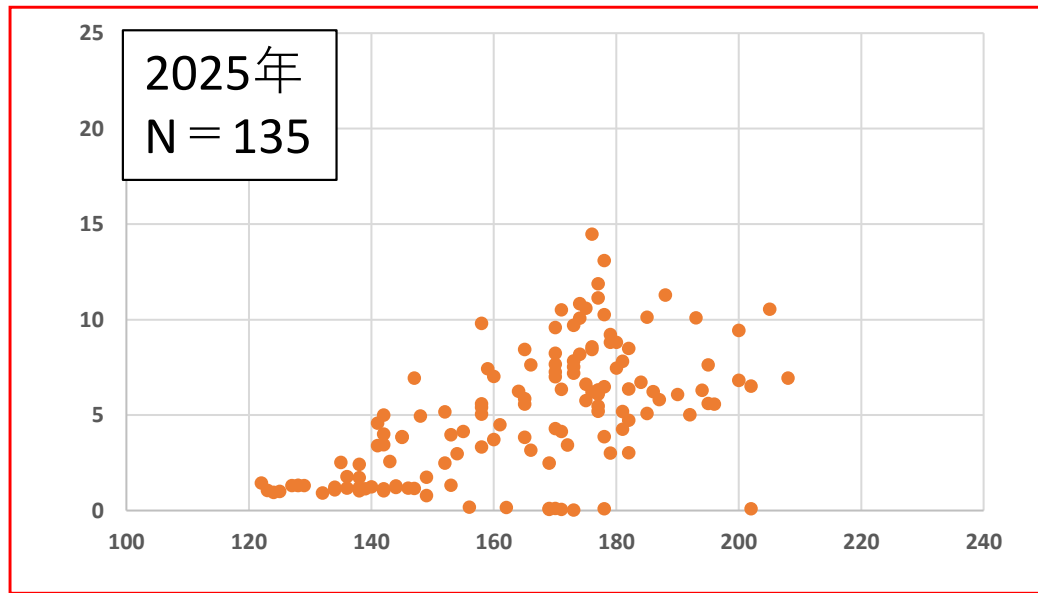
- ・ 2025年も100kg以上/網を記録した地点なし。
- ・ 平均は19.2kg/網（前年比141.8%、平年比22.8%）で低調

結果③ ハタハタのサイズ組成（全調査地点）



- ・ 昨年と同様に体長15-18cm②－④番サイズがメイン。
- ・ 1歳魚（13cm前後の2024年級群）は前年よりやや多い。

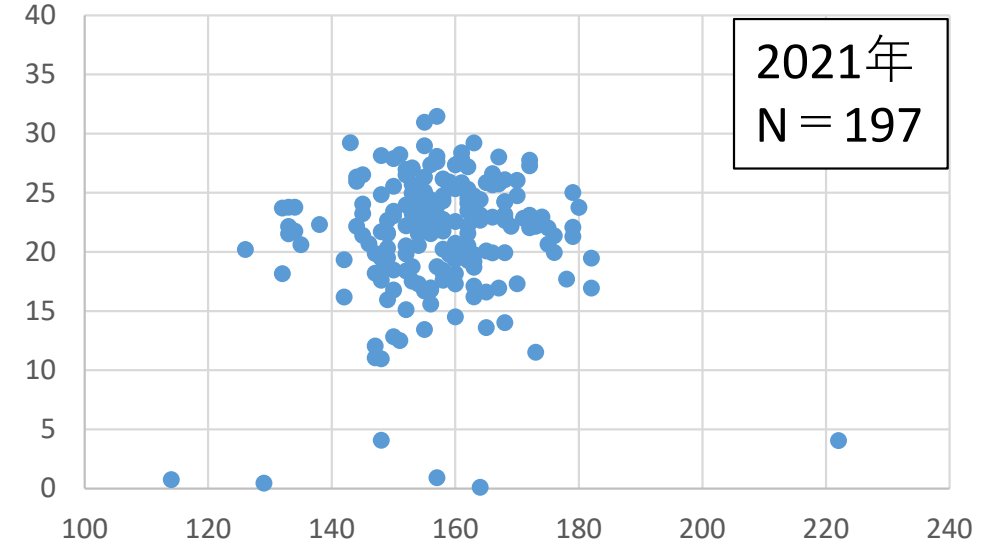
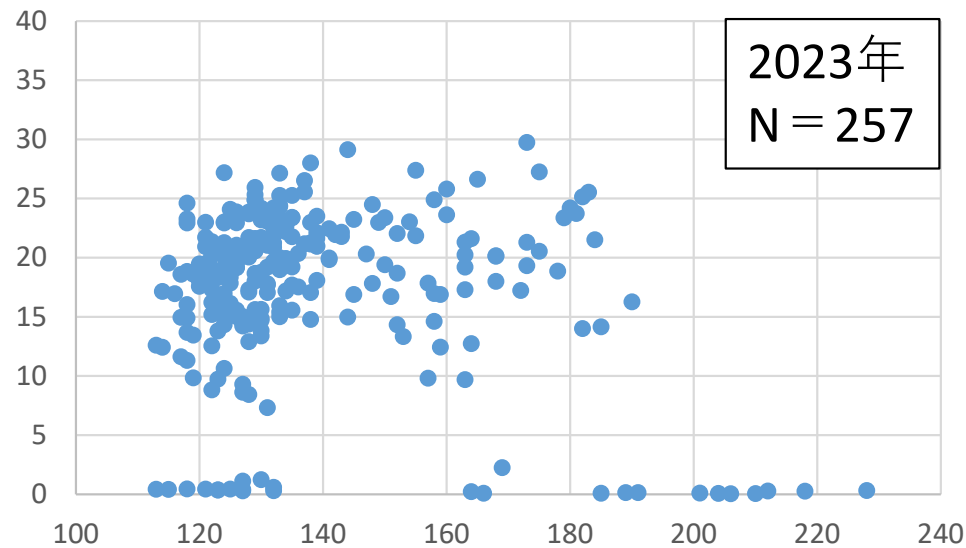
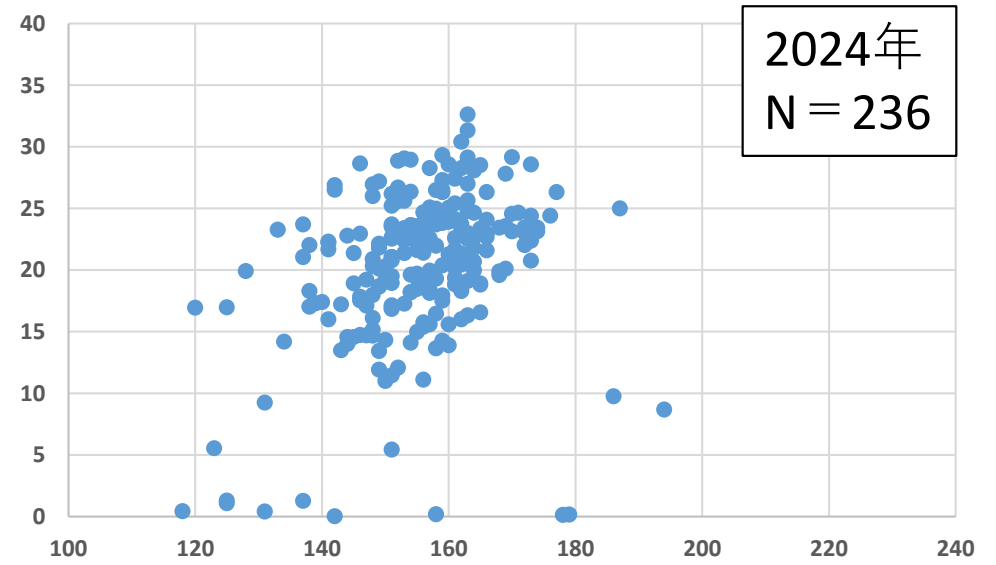
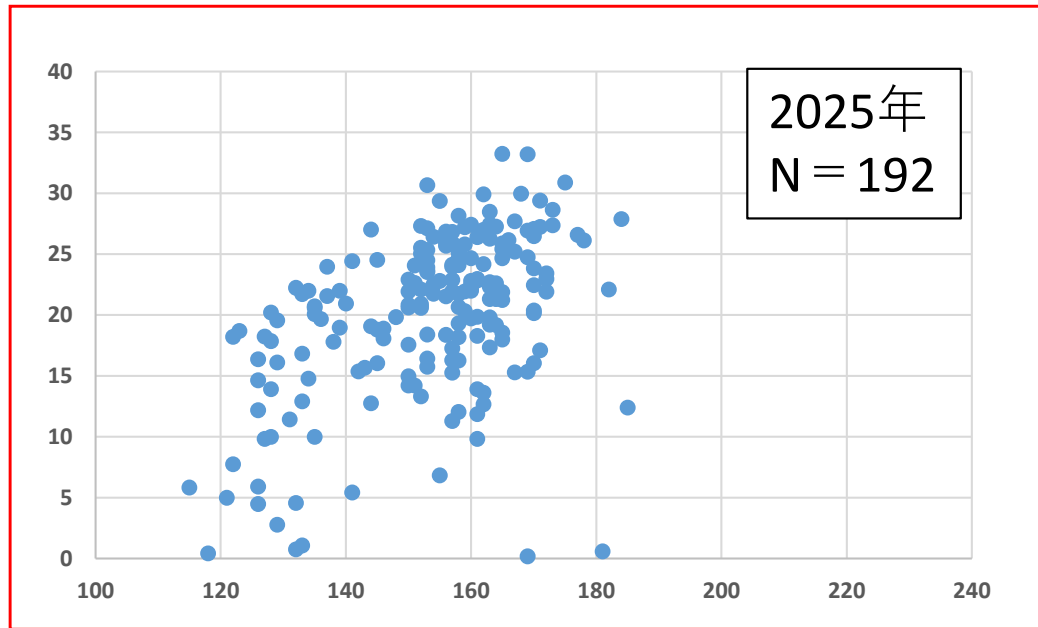
補足① ハタハタ♀の体長と生殖腺指数の関係



横軸：体長（mm） 縦軸：生殖腺指数（%） = 生殖腺重量g ÷ 内臓除去重量g × 100

2025年の雌の生殖腺指数は近年ではやや低めの値

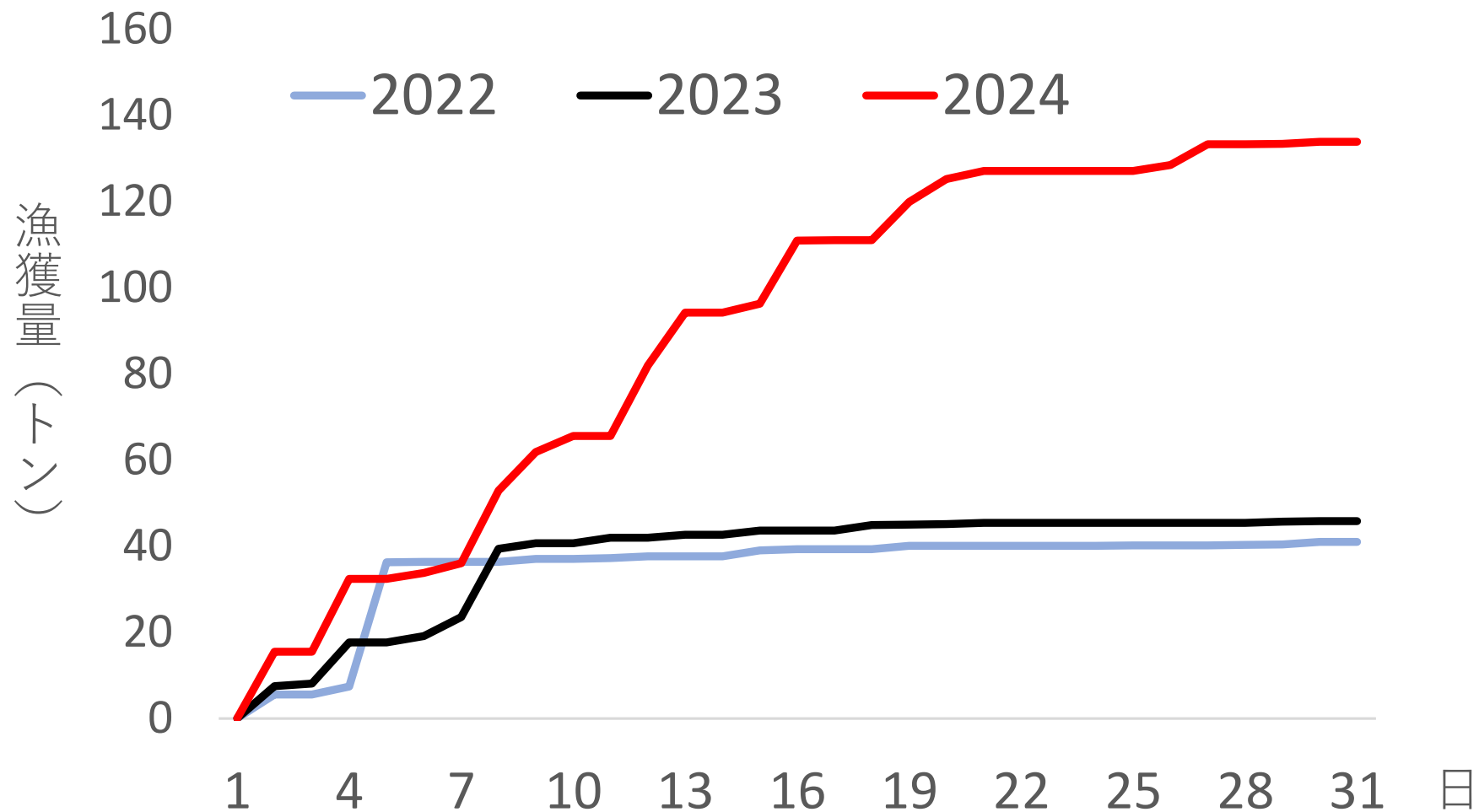
補足② ハタハタ♂の体長と生殖腺指数の関係



横軸：体長（mm） 縦軸：生殖腺指数（%）＝生殖腺重量g÷内臓除去重量g×100

雄の生殖腺指数は近年同様に高い状況

補足③ 本県の9月のハタハタの累積漁獲量



昨年は9月20日頃までハタハタの水揚げが続いた。

今年も産卵による漁場からの逸散はやや遅れ、継続的に漁獲があるのでは



結果④ ハタハタ以外の漁獲状況



定点	緯度	経度	水深 (m)	1曳網（30分・1.5mile）当たりの各魚種の漁獲量（kg）												
				アカガレイ ♂	アカガレイ ♀	エテ	ベラ	ニシン	スルメイカ	モサエビ	ガラエビ	オニエビ	白バイ	赤バイ	ズワイ ♂	ズワイ ♀
st.1	3553.37	13344.71	187	0.2	3.6	2.3	0.0		1.9	0.0			0.9	3.3	0.6	0.4
st.2	3554.66	13354.02	213	11.8	17.4	3.9			4.1	0.5			2.1	4.6	6.7	2.9
st.3	3557.50	13358.37	249	8.6	33.6	2.6	0.4		1.0	0.4		0.1	6.1	1.0	3.0	10.1
st.4	3603.54	13346.26	194			2.5	0.5		5.4	0.3			0.3	0.8	2.9	0.4
st.5	3611.37	13341.61	194		3.8	3.3	4.4		1.9					16.6	6.5	0.3
st.6	3616.12	13342.01	198						0.4				0.3	2.6	8.6	4.8
st.7	3623.84	13343.81	230		0.8	0.0	2.5	16.9		2.3			6.0	3.2	23.5	16.6
St.11	3627.82	13253.50	183			0.0	0.2	0.0					1.1	4.0	4.9	0.4
St.12	3623.07	13248.02	223		2.0	0.2	2.8	42.3	4.5	1.4			4.4	9.7	30.8	30.0
St.13	3538.25	13213.40	199			1.2	5.8	0.0	1.7	0.4			1.6	4.6	21.1	14.2
St.14	3540.36	13210.33	218			0.0	1.0	12.6	3.3	0.5			0.9	2.1	7.3	19.5

良く獲れた魚種は少ない状況。

- ・アカガレイが青谷沖（st.3）（体長200-240mmの雄、280-330mmの雌）で入網
- ・ニシンが中江（st.12）（体長230-260mmサイズ）で入網

【参考】

島根県の二艘曳の情報⇒8月半ばからアカムツ狙いの操業で小型主体で漁獲は順調
兵庫の漁期前調査⇒但馬沖で量は多くないが2歳魚主体にハタハタが入網

まとめ

【沖底漁期始めの漁況の見通し（ハタハタについて）】

- ・ハタハタは中型サイズ（③～④番）メインに漁獲があると予想される。
- ・9月のハタハタの漁獲量は前年並み、平年を下回る低調な漁獲になると予想される。

※小型の1歳魚も少ない状況で、これが漁獲対象となる来年の春も漁獲が低調となることが予想される

※雌の卵巣の発達、前年よりやや遅れていると思われ、産卵回遊のため漁場から逸散するのはやや遅くなると予想→漁獲が少しは長く続くことを期待

【沖底漁期始めの漁況の見通し（他魚種について）】

調査で目立って良く獲れた魚種はなく、カレイ類、スルメイカ、モサエビ等漁獲は低調になることが予想される。

【今後の鳥取丸の沖底関連調査】

9月8日～18日：隠岐周辺、浜田沖でのズワイガニ（稚ガニ）・カレイ類（稚魚）桁網調査

9月29日～10月24日：ズワイガニ漁期前トロール調査